

概要版

第6次

津幡町総合計画

令和8年度 ▶ 令和17年度



2026 - 2035

ごあいさつ



私たちのまち、津幡町は加賀・能登・越中の三国を結ぶ交通の要衝として栄えてきた歴史に加え、河北潟や森林公園に代表される豊かな自然と、快適で便利な都市環境が共存、調和するまちづくりを進めてきました。その結果、現在では約37,500人の人口を擁する町に発展しました。しかし、この間に、町民の価値観やニーズはさらに多様化するとともに、少子高齢化や人口減少、急速に進展するデジタル化、自然災害の激甚化など、町政を取り巻く状況は大きく変化しています。また、令和6年能登半島地震は、地域防災力の強化や災害に強いまちづくりの重要性を改めて認識させるものでした。これらの課題に適切に対応するためには、従来の行政運営に加え、町民・企業・各種団体など多様な主体が協力し、共創しながらまちづくりを進めていくことが必要です。

「第6次津幡町総合計画」ではまちづくりの将来像を「元気あり！住んでよし！誰もが輝くまち つばた」と定め、その実現に向けて、5つの基本目標とその具体的施策をお示ししています。今後は、本計画をまちづくりの指針として、町民の皆様との情報共有を図りながら、それぞれの役割と責任のもとで互いに協力し、着実に施策を推進してまいります。そして、持続可能な地域社会の構築と住民主体のまちづくりを目指す10年間としていきたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をお寄せいただきました住民の皆様をはじめ、慎重な審議を重ね答申をいただきました津幡町総合計画審議会の皆様ならびに関係各位に、心より感謝申し上げます。

令和8年3月
津幡町長 矢田 富郎



はじめに

計画策定の趣旨

本町では、2016(平成28)年3月に第5次津幡町総合計画を策定し、「住んでみたい、ずっと住みたい ふるさとつばた」を将来像として掲げ、各種まちづくり施策を展開してきました。

この間、町民の価値観やニーズがさらに多様化するとともに、少子高齢化・人口減少の加速、デジタル社会の本格的な進展、脱炭素社会への転換、激甚化する自然災害への対応、新型コロナウイルス感染症を契機とした生活様式の変化、地域コミュニティの希薄化など、本町を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、2024(令和6)年1月に発生した能登半島地震は、改めて地域防災力の強化や災害に強いまちづくりの重要性を認識させるとともに、地域の絆や支え合いの大切さを再確認する契機となりました。今後は、これらの教訓を活かし、安全・安心なまちづくりをより一層推進していく必要があります。

さらに、本町の市街地や骨格となる道路網などのハード整備は、社会基盤の老朽化への対応が急務となっており、今後は限られた資源を有効に活用しながら、持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

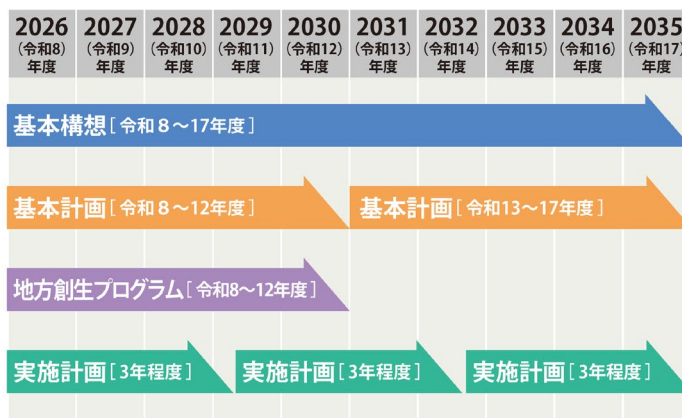
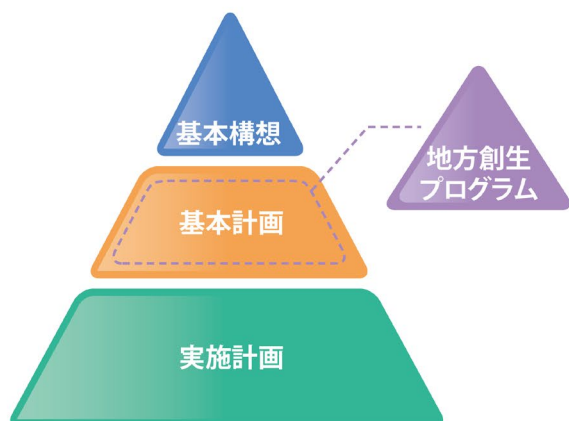
加えて、2015(平成27)年3月の北陸新幹線金沢開業からの効果を持続・発展させるとともに、2024(令和6)年3月の福井・敦賀延伸による新たな交流圏の拡大を好機として捉え、関係人口・交流人口のさらなる拡大や、移住・定住の促進に向けた施策展開にも取り組む必要があります。

これらの取組の推進にあたっては、町が主体となって対応してきた従来の行政運営だけでは限界があり、町民・企業・各種団体などの多様な主体が協働・共創し、それぞれの強みを活かしながら、まちづくりを実践していく必要があります。

このような現状や課題を踏まえ、今後10年間のまちづくりを進めていくための指針となる第6次津幡町総合計画を策定します。

総合計画の構成

本町の総合計画は津幡町総合計画策定条例に基づき策定するもので、「基本構想」「基本計画」「総合戦略(以下、地方創生プログラム)」「実施計画」で構成されます。



基本構想

◆ まちづくりの将来像

元気あり！住んでよし！ 誰もが輝くまち つばた

◆ まちづくりの視点



持続可能なまちづくり

- これまで本町では、成長・拡大を目指す社会から、これまでのまちづくりの成果を維持・活用しながら、地域の資源や魅力を十分に引き出し、新たな魅力を創出することを目指してきました。今後は、経済的、社会的、環境的な観点から、多様化・複雑化する現代のニーズを満たす一方で、将来世代のために資源や環境を保全し、充実させて引き継いでいくことが重要となっています。
- そのため、本町が有する様々な資源や魅力を最大限に活用し、新たな魅力を創出するとともに、それらを支える健全で安定した行財政基盤を確立し、未来につなぐための「**持続可能なまちづくり**」を進めます。



つながりを深め広げるまちづくり

- これまで本町では、新たなにぎわいや活力の創出に向け、近隣市町をはじめとした広域的な交流と連携によるまちづくりを進めてきました。一方、生活様式の多様化により、地域コミュニティなどのつながりが希薄化しています。
- 今後は、社会の変容に対応したつながりや交流が求められており、場所を選ばないデジタルコミュニケーションの活用や、多世代や多文化が共生する、広域的で多様な人や組織が関係を深める場の提供・創出を通して、「**つながりを深め広げるまちづくり**」を進めます。



住民主体のまちづくり

- 積極的な住民協働によるまちづくりは、地域に対する愛着や責任感を育むだけでなく、住民や行政、各種団体、事業者などが対等な立場で連携・協力し、地域の課題に対する意見や解決策を多角的に取り入れることができるため、より良い地域づくりにつながります。
- 地域の住民が主体的に参加し、協力し合いながら地域の課題解決や環境づくりを自立的に進めることで、住民の意見やニーズが反映され、より実効性のあるまちづくりが実現することを旨とし、「**住民主体のまちづくり**」を進めます。

◆ まちづくりの基本目標

基本目標1

安全・安心で
快適に暮らせるまち

基本目標5

つながり支えあい
共創するまち

元気あり！住んでよし！
誰もが輝くまち つばた

基本目標2

地域の魅力と活力が
あふれるまち

基本目標4

豊かな心を育み
自分らしく活躍できるまち

基本目標3

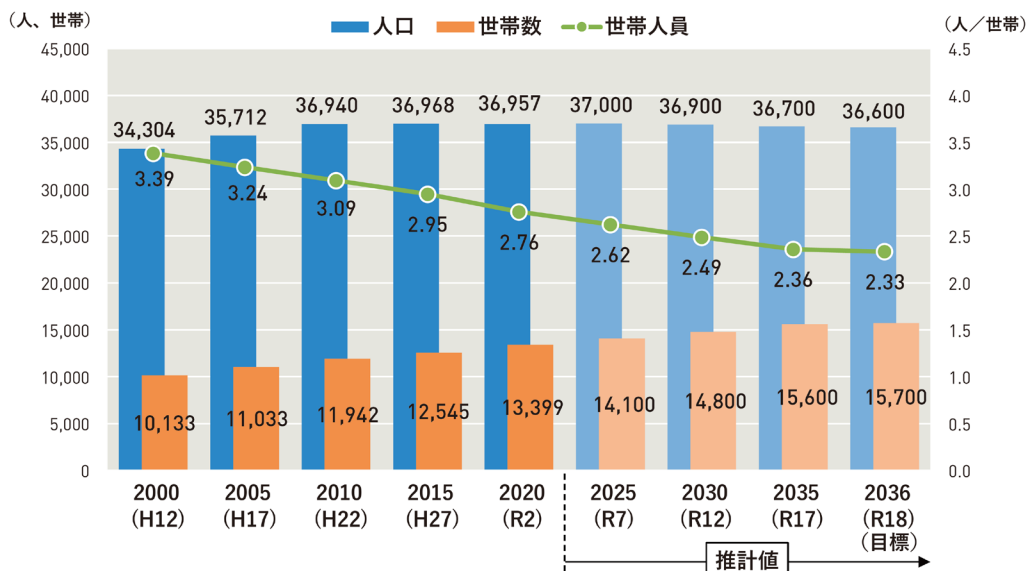
生涯にわたって
いきいきと過ごせるまち

◆ 将来人口








本町の将来人口は、全国的な出生率の向上や子育て環境の改善などの取組のほか、本町の魅力を活かしたまちづくりの推進、企業誘致やUJIターン、定住促進などの各種取組を踏まえて、目標年次(2036(令和18)年)の将来人口を**36,600人**と設定します。

また、近年の世帯の小規模化(核家族や単身世帯の増加)の傾向を踏まえながら、三世帯の同居や近居を奨励する施策を推進し、2036(令和18)年の世帯数は**15,700世帯**、世帯人員を**2.33人/世帯**と設定します。




▼人口・世帯数・世帯人員の推計






土地利用ゾーニング

 市街地ゾーン	住みやすい居住環境の保全を推進するとともに、安心して快適な生活環境を創出するゾーンとし、都市機能の集約化により、魅力的な市街地の形成を推進するとともに、地域コミュニティの強化を進めます。
 にぎわい創出ゾーン	利便性、文化性のあるにぎわいを創出するまちの中核となるゾーンとし、魅力ある商店街の充実や文化機能・教育機能・行政機能の中心としてにぎわいの創出を進めます。
 産業創出ゾーン	既存工業施設が集積するゾーンとして、今後も周辺環境との調和に配慮しながら、本町における産業の発展に寄与する機能の集積・充実を進めます。
 農業ゾーン	河北潟周辺の農業基盤の強化・充実、水田を中心とした農業の振興、特産品開発など本町の魅力となる第1次産業の振興を推進します。
 森林ゾーン	豊かな自然環境を適正に保全・継承し、緑豊かなまちづくりを進めます。
 里山ゾーン	森林ゾーンに囲まれた集落や棚田などの美しい里山景観を保全するとともに、集落の生活環境を維持する取組を進めます。
 いきいき交流ゾーン	健康で豊かな生活を支援するとともに、交流人口増加のための特徴あるゾーンの充実を推進します。

拠点

 交流拠点	幅広い交流の核となる拠点として機能充実や整備を推進します。
 地域拠点	地域のコミュニティ強化や福祉、生活環境、防災面など、安全・安心な生活を支援するための拠点として機能の充実や整備を推進します。
 複合機能開発拠点	物流や産業、住宅などの複合的な開発の拠点として、物流や商業施設などの立地や、安全・安心な住環境の整備、企業の誘致などを推進します。

都市軸

 広域連携軸	周辺の市町をはじめとした連携を強化する軸として位置づけ、広域的な連携・交流を推進します。
 地域連携軸	広域連携軸を補完する軸として位置づけ、隣接市町などとの連携強化や、市街地と郊外部・集落地との連携強化を進め、交通の要衝となる本町のアクセス性を向上します。
 地区連携軸	本町の生活拠点などを連携し、市街地内や各地区間のネットワーク形成や交流を推進します。

基本計画

将来像

元気あり！ 住んでよし！

まちづくり
の視点

持続可能なまちづくり

つながりを

基本目標

基本目標 1

安全・安心で
快適に暮らせるまち

基本目標 2

地域の魅力と
活力があふれるまち

施策の方針

1 災害に強いまちづくりの推進

2 防犯・交通安全対策の充実

3 自然環境や生活環境の保全

4 住みよい都市基盤づくり

1 豊かな自然や歴史・文化等の活用

2 観光・交流の推進

3 産業の振興と雇用の創出

施策の内容

- ① 災害に備えた体制づくり
- ② 防災・減災基盤の充実
- ③ 消防力の充実・強化
- ④ 救急救助体制の充実

- ① 防犯・消費者トラブル対策の充実
- ② 交通安全対策の充実

- ① 豊かな自然・里山環境の保全
- ② 地球温暖化対策の推進
- ③ 生活環境の保全
- ④ ごみの減量化、資源化の推進
- ⑤ 環境美化の推進

- ① 良好な市街地の整備
- ② 総合的な空き家対策の推進
- ③ 定住の促進
- ④ 道路網の整備と適正な維持管理
- ⑤ 公共交通の利便性向上と利用促進
- ⑥ 上下水道の適切な維持管理と更新

- ① 豊かな自然・里山環境の活用
- ② 文化財の保護と継承
- ③ 歴史・芸能・文化の継承
- ④ 歴史文化伝承施設の活用

- ① 観光・交流拠点の整備・活用
- ② 観光・交流資源の磨き上げの推進
- ③ 観光受け入れ体制の強化
- ④ 多様な情報発信の推進
- ⑤ 広域観光の推進

- ① 農林業の振興
- ② 商業の振興
- ③ 工業の振興
- ④ 雇用機会の創出

誰もが輝くまち つばた

深め広げるまちづくり

住民主体のまちづくり

基本目標3

生涯にわたって
いきいきと過ごせるまち

1

安心して結婚・妊娠・出産・
子育てできる環境の充実

- ① 安心して結婚・妊娠・出産できる環境の充実
- ② 子育て支援の充実
- ③ 家庭教育の充実と地域ぐるみの支援体制の強化

2

福祉・介護支援の充実

- ① 地域福祉の充実
- ② 高齢者福祉の充実
- ③ 障害者福祉の充実
- ④ 社会保障制度の維持・充実

3

心と身体の健康づくりの推進

- ① 健康づくりの推進
- ② 地域医療体制の充実・強化
- ③ 救急医療体制の充実

基本目標4

豊かな心を育み
自分らしく活躍できるまち

1

確かな学力と社会の変化に
対応できる人材の育成

- ① 確かな学力の育成
- ② 情報活用能力の育成
- ③ キャリア教育の推進
- ④ 非認知能力の育成

2

ふるさとへの愛着と
豊かで健やかな心身を育む教育の推進

- ① ふるさと「つばた」への愛着の醸成
- ② イノベーションを担う人材の育成
- ③ グローバル社会で活躍する人材の育成
- ④ 心の教育、道徳教育の充実
- ⑤ 健やかな体の育成
- ⑥ 青少年の健全育成

3

生涯学習とスポーツ・芸術文化
活動の推進

- ① 生涯学習の推進
- ② 良質な図書館サービスの推進
- ③ スポーツを通じた地域づくり
- ④ スポーツ環境の整備
- ⑤ 芸術文化活動の振興と地域づくり

4

安全・安心で質の高い教育環境と
学び支え合う地域づくりの推進

- ① 多様な教育ニーズへの対応
- ② 安全・安心な教育環境の整備促進
- ③ 教職員研修の充実と労働環境の向上
- ④ 現代的・社会的課題に対応した学習の充実
- ⑤ 学校・家庭・地域との連携・協働

基本目標5

つながり支えあい
共創するまち

1

地域コミュニティの活性化と
参画・協働の促進

- ① 地域コミュニティ活動の促進
- ② 地域コミュニティセンターの整備・充実
- ③ 地域の教育力の向上
- ④ 参画と協働の促進

2

多様性が尊重されるまちづくり

- ① 人権の尊重・啓発の推進
- ② 男女共同参画の推進

3

質の高い行政運営の推進

- ① 情報提供の充実
- ② 行政サービスの充実
- ③ 効率的な行政運営の推進

基本目標1 安全・安心で快適に暮らせるまち

- 近年激甚化する災害に備えるため、ハード・ソフト両面から災害に強いまちづくりを進めるとともに、防犯・交通安全対策の充実を図り、安全で安心して暮らせるまちを整備します。
- 田園や森林などの緑や水辺の環境の保全とともに、地球環境問題への意識を高め、循環型社会の構築に向けた取組を進め、将来にわたり豊かな自然を感じることができるとともに、まちづくりを進めます。
- 自家用車に依存しなくても暮らしやすい環境の整備や、災害復旧と合わせた生活インフラの維持管理・更新、空き家等を利活用した移住・定住促進を行い、本町に住みたい、住み続けたいと思える都市基盤を整備します。



石川県ドクターヘリとの連携



交通安全教室



津幡駅東口駅前広場完成予想図



AIオンデマンドバス『のーと津幡』

基本目標2 地域の魅力と活力があふれるまち

- 豊かな自然環境や様々な歴史・伝統・文化などを保全・継承するとともに、新たな魅力を発掘し磨き上げ、地域に誇りと愛着が生まれ、自慢したくなるまちづくりを進めます。
- 森林公園や体験型観光交流公園などをはじめ、本町特有の多彩な資源(ヒト・モノ・コト)を活用し、町内外に広く発信することで、人が集まり交流し活力を生み出すまちづくりを進めます。
- 中小企業や農林業の支援を充実し、産業の振興を図るとともに、地域特性を活かした企業誘致や新たな産業団地の整備などにより、働く場を創出し、好循環を生み出すまちづくりを進めます。



河合谷宿泊体験交流施設「河愛の里Kinschule」



子ども歴史民俗講座の開催



広域観光マップ



親子収穫体験ツアー

基本目標3 生涯にわたっていきいきと過ごせるまち

- 結婚から子育てまで地域全体で支援する体制を充実することで、子育ての楽しさや喜びを実感でき、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めます。
- 子どもからお年寄りまで、必要な時に支援やサービスが受けられ、誰もが生活に困難を抱えることなく、住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができるまちづくりを進めます。
- 生涯にわたり心と身体の健康を保ちながら、地域で安心して適切な医療サービスが受けられるよう、また、災害時には拠点病院となる新たな医療機関の整備などにより、いつまでも健やかに暮らせるまちづくりを進めます。



児童センターで過ごす親子の様子



障害者や高齢者が利用しやすい駐車場



食生活改善に向けた料理教室

基本目標4 豊かな心を育み自分らしく活躍できるまち

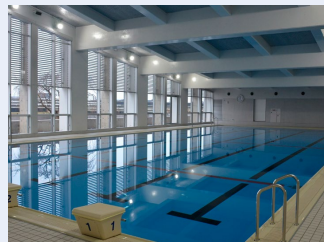
- 確かな学力と社会の変化に対応できる豊かな心と健やかな体を持つ子どもたちを、地域が一体となり育むことで、未来を切り拓く知恵と力をもった子どもたちが育つまちづくりを進めます。
- ふるさと津幡の過去から現在に至る学びや、様々な地域やコミュニティのつながりなどを通して、ふるさとを愛し誇りに思う心を育むとともに、国内外で社会に貢献する人材を育成します。
- 世代を超えて学び続けられる環境や、気軽にスポーツ活動・芸術活動に参加し楽しむことができる環境づくりに取組み、生涯にわたり自分らしく活躍でき、豊かな人生を送れるまちづくりを進めます。



GIGAスクール構想で整備した端末



図書館の園児招待事業



津幡町住吉公園屋内温水プール「アザレア」



教職員研修



地震発生を想定した避難訓練

基本目標5 つながり支え合い共創するまち

- 地域の交流を促進し、支え合いの意識やつながりを醸成するとともに、住民自らが地域の課題解決に主体的に参画することで、地域に誇りと愛着を感じて暮らすことができるまちづくりを進めます。
- 年齢や性別、国籍などにかかわらず、多様な立場の人々がお互いに認め合い、対話ができる環境を整えることで、本町にとって新しい価値をとともに創造していきます。
- 誰もが利用しやすい行政サービスと開かれた行政運営を進めるとともに、行政コストの削減に向けたデジタル化の推進や施設・組織の最適化を図ります。



声掛けボランティア体験での小学生と地域の交流



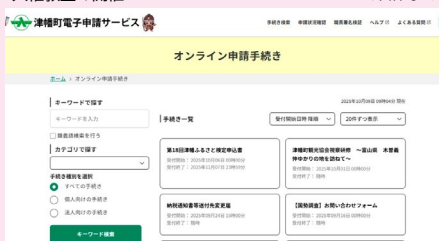
第6次総合計画策定に向けた住民ワークショップ



人権教室の開催



津幡町公式LINEアカウント



電子申請サービス

【第3期】

津幡町まち・ひと・しごと 創生総合戦略（地方創生プログラム）

計画の位置づけ

「津幡町総合戦略」は、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口の現状および将来の見通しを示した「津幡町人口ビジョン」を踏まえ、人口減少を克服し、「活力ある日本社会」を維持するための地方創生を目的とした計画です。本計画においても将来にわたって成長力を確保することを目指し、「地方創生プログラム」を「第3期津幡町まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置づけることとします。計画期間は、基本計画の前期計画期間と整合を図り、2026(令和8)年度から2030(令和12)年度までの5年間とします。

Project

1

地域の好循環で活性化

元気あり! プロジェクト

- ① 地域資源が持つ潜在力を磨き上げる
- ② 人と人、地域と地域をつなげる
- ③ 新たな仕事や産業を生み出す

Project

2

生活の質を高め魅力アップ

住んでよし! プロジェクト

- ① 生活基盤を整える
- ② 一人ひとりの暮らしを地域で支え合う
- ③ つばたの魅力を伝え愛着を深める
- ④ 地域の課題を解決するため多様な主体が共創する

Project

3

一人ひとりが主役

誰もが輝くまち プロジェクト

- ① 結婚・出産・子育てを応援する
- ② 未来を切り拓く知恵と力を育てる
- ③ 自分らしい成長や活躍を後押しする

元気あり! プロジェクト

プロジェクトの方針

本町の将来像「元気あり!」には、「人口減少・少子高齢化が進行する社会においても、さらなる成長・活性化に向けて、多様な交流や活動を創出し、将来にわたって人々の活気と笑顔あふれるまちを目指す」という意味が込められています。

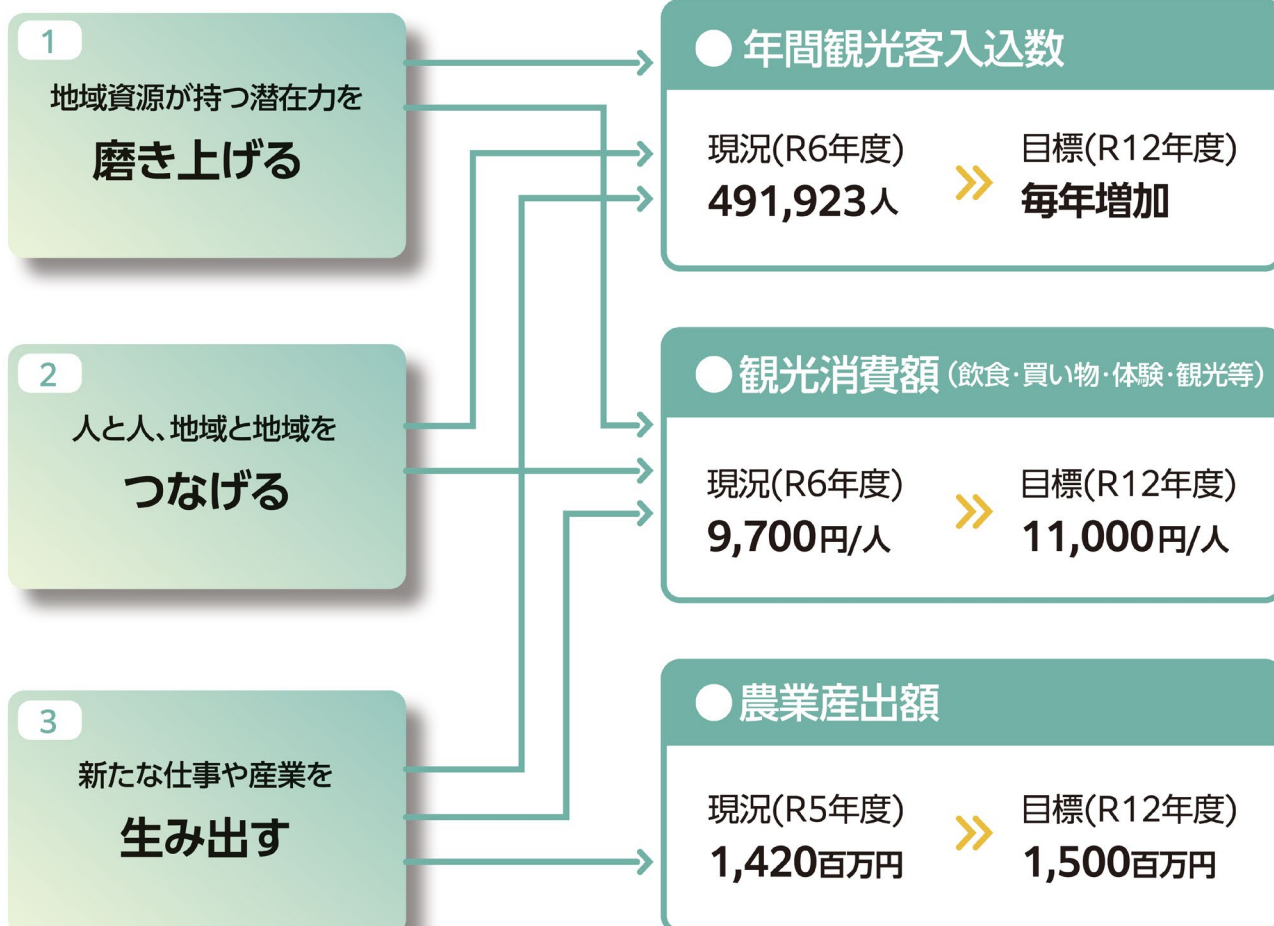
本プロジェクトの推進にあたり、「磨き上げる」「つなげる」「生み出す」の3つの方針に基づき、各施策に取り組んでいきます。「磨き上げる」では、本町ならではの多様で魅力ある地域資源を磨き上げるとともに、「つなげる」では、交流人口の拡大や観光振興により人や地域をつなげます。そして、「生み出す」では、新たな雇用機会や産業振興を通じて地域経済の好循環を生み出します。

町内外の人々が集い、にぎわいが生まれる仕組みづくりを進めるとともに、地域全体の経済循環を促進し、住む人が元気・活力を実感できるまちづくりを推進していきます。

成果指標

▼ プロジェクトの方針

▼ 成果指標



住んでよし! プロジェクト

プロジェクトの方針

本町の将来像「住んでよし!」には、「豊かな自然環境や、交通・買物の便の良さといった本町の強みを最大限に活かし、安全・安心で便利に暮らせる住みよいまちを目指す」という意味が込められています。

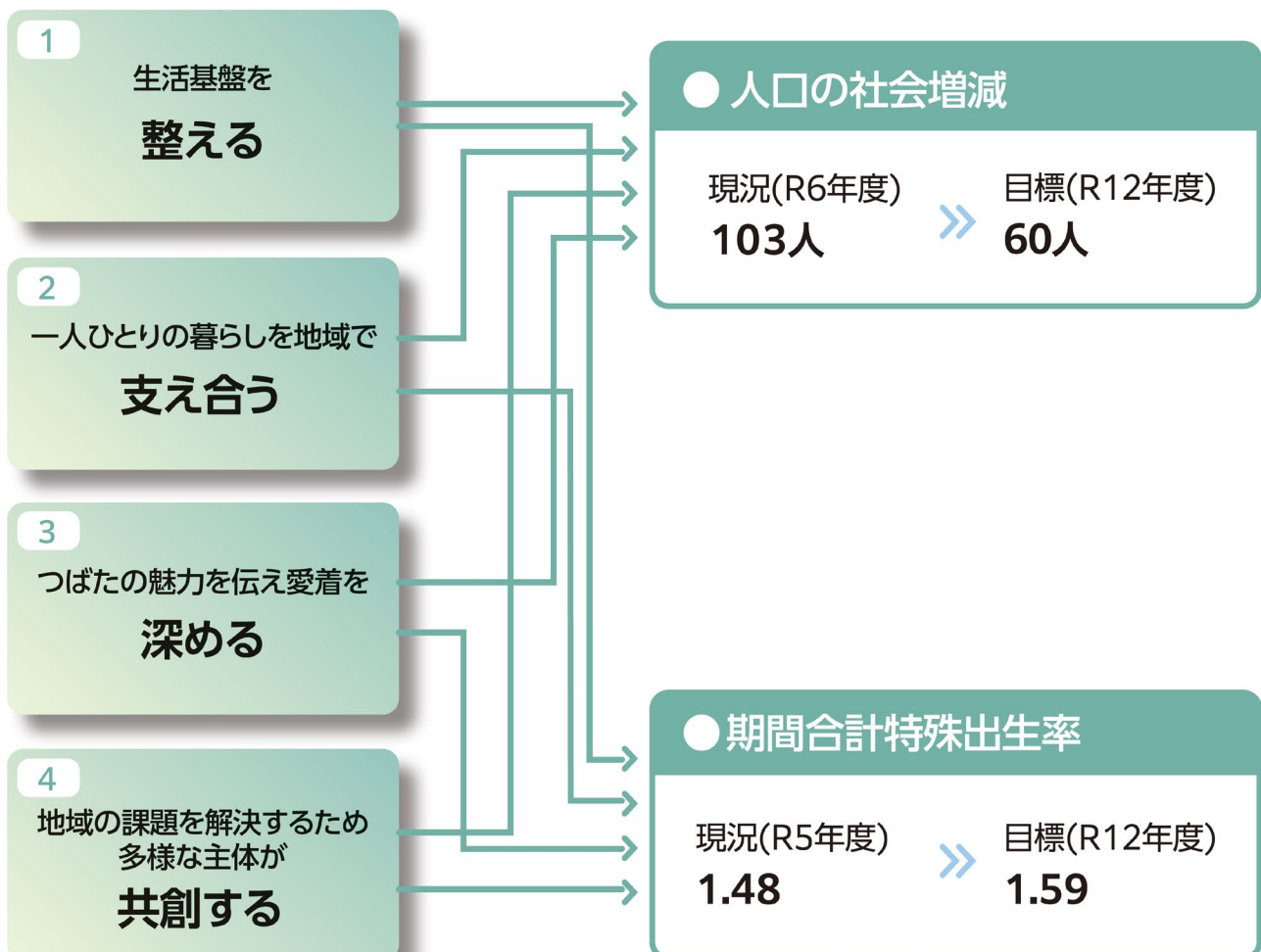
本プロジェクトの推進にあたり、「整える」「支え合う」「深める」「共創する」の4つの方針に基づき、各施策に取り組んでいきます。「整える」では、快適で機能的な都市基盤を整備し、「支え合う」では医療・福祉サービスを提供し、支え合いの体制づくりを支援します。「深める」では移住・定住につなげるため、本町の魅力を伝えるとともに、ふるさとへの愛着を深め、選んでもらえるまちづくりを進めます。「共創する」では地域の課題解決に向け、住民同士が協力し新たな価値を創造していくまちづくりを進めます。

すべての人にとって住みよいまちとなり、本町を選んでもらう・住みつけてもらうために、本町の魅力や暮らしやすさを高めていきます。

成果指標

▼ プロジェクトの方針

▼ 成果指標



誰もが輝くまち プロジェクト

プロジェクトの方針

本町の将来像「誰もが輝くまち つばた」には、「老若男女問わず誰もが自己実現に向けて学び・成長し、自分らしく魅力的に輝くことができるまちを目指すとともに、“つばた”から全国・世界へその輝きを上げていくことを目指す」という意味が込められています。

本プロジェクトの推進にあたり、「応援する」「育てる」「後押しする」の3つの方針に基づき、各施策に取り組んでいきます。「応援する」では結婚・妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援体制を通じ、子育て世代や子どもの成長を応援するとともに、「育てる」ではふるさと津幡を担う人づくりとして教育環境の充実を進めます。そして「後押しする」では、年齢や性別に関わらず誰もが持つ能力や経験を発揮できる活躍の場を広げていきます。

本町の未来を担う人財が育つ環境を整備するとともに、世代を超えて人と人とのつながりが生まれ、すべての人が生涯にわたって自分らしく輝き、誰もが主役となって活躍できるまちを実現していきます。

成果指標

▼ プロジェクトの方針

1
結婚・出産・子育てを
応援する

2
未来を切り拓く知恵と力を
育てる

3
自分らしい成長や活躍を
後押しする

▼ 成果指標

● 期間合計特殊出生率【再掲】

現況(R5年度)	目標(R12年度)
1.48	1.59

● 婚姻届出数

現況 (R2年～R6年の累計)	目標 (R8年～R12年の累計)
539件	500件

● 自分にはよいところがあると思う
児童生徒の割合

現況(R7年度)	目標(R12年度)
88.6%	100%



津幡町

第6次津幡町総合計画

発行日 令和8年3月

発行者 津幡町

〒929-0393 石川県河北郡津幡町字加賀爪二3番地

TEL : 076-288-2158

FAX : 076-288-6358

URL : <https://www.town.tsubata.lg.jp>

企画編集 津幡町 総務部 企画課